

第1回徳島県消防広域化推進計画検討委員会 会議録

- 1 日時 平成30年9月14日（金）10時～11時10分
- 2 会場 県庁10階 特別大会議室
- 3 出席者 委員 県
青木圭子（敬称略、以下同じ） 福井廣祐 政策監
遠藤彰良 朝日隆之 危機管理部長
川原和秀（代理人：野村総務課 佐藤章仁 消防保安課長
課長補佐）
小池和成
小谷憲市
後藤正和
住友正吉
中野 晋
乃一一夫
藤田元治（代理人：加美副市長）
矢野壽美子

（会議次第）

- 1 開会
- 2 議事
（1）広域化のこれまでの経緯について
（2）今後の方針について
- 3 閉会
（以下、概要は別に掲げる）

■議事

（委員長）

それでは、議事を進行します。会議につきましては、お手元に配布の「次第」に沿って進めて参ります。

平成20年度の推進計画策定から10年が経過しているということもあり、これまでの経緯を一度みなさんで共有しながら、今後どのような検討をしていくのかという流れで進めていければと思います。

それでは、議事1「広域化のこれまでの経緯」について事務局から説明してください。

（消防保安課長）

資料1—1～5の説明

(委員長)

はい、ありがとうございました。

まず、広域化のこれまでの経緯のほか、その必要性や全国の状況、さらに本県の消防の現状を踏まえた課題等について説明いただきました。

今後の消防力を強化するには、広域化は避けては通れないと、よく分かったわけですが、ここまでで、何かご質問やご意見はありませんでしょうか。

この10年間、広域化がなかなか進んでこなかった、色々課題はあると思うのですが。

(A委員)

10年間ほとんど進んでいないことの原因を検証をすべきではないか。

(委員長)

いざ、災害時には連携協力が必要だが、通常は、日々の業務で手一杯ということで、なかなか進めれないというのが現状ではないか。将来を見据えれば、一日も遅れられない問題なので、皆で知恵を絞って前に進むべきではないでしょうか。

(B委員)

なぜ10年間広域化が進まなかったか。

地理的な要因から一元化は難しいと思う。

名西組合を構成する神山町は山、石井町は平地で、救急車もなかなか現場にたどり着かない。また、職員の世代交代で、地理に不安な職員も多い。

(委員長)

一元化が進まない問題点をいただいた。

(C委員)

応援に来てもらうにも時間がかかるし、逆に、我々が美馬市にハシゴ車を出すにしても、時間がかかるのに、そこまで必要かということがある。

予算面でも、うちは住民700人に職員1人だが、三好市では200人で1人だ。このまま、合併して予算が持つのだろうか。管理職は減らせても、一般職員は減らせない。

(委員長)

予算的な心配ということですが、県からコメントはありますか。

(消防保安課長)

消防力は、対人口だけでは測れないのではないか。

みよし広域では、祖谷の奥では、人口比で救急隊員は多く必要。対して、都市部は、予防業務やハシゴ車が必要になる。財政に占める消防の割合は、各市町村で異なっている。市町村ごとに実情を細かく調査、分析して、調整する必要がある。

(委員長)

具体的な運用になると、やはり予算面の懸念がでるのは当然のことと思う。

(D委員)

もともと消防は、地元の住民の財産を守るということから出発したと思うので、なかなか統合という組織合併は難しいとは思う。しかし、この10年で大きな災害やテロが起きているので、地元の町だけで対応するのは難しくなっており、10年前に反対した人も賛成に回るのではないかな。

また、医師会の立場から言うと、救命士の高度な人材育成の点からも、消防の広域化は必要と思う。

(委員長)

10年前とは、災害も起きて、事情も異なっている。メリットのあるところから、段階的にしていけばという御意見でした。

(E委員)

私は、北島町なので、工場事故が起きた緊急時は徳島や鳴門から応援に来てもらっている。

特に救急は、時間を一刻も争うので、高度な救命士の育成などは、広域で連携した方がメリットがある。近いところから、連携すべきだ。

(委員長)

貴重な前向きな御意見でした。できるところから、始めようということです。

(B委員)

山火事が神山町内で起きたことがあったが、徳島市の消火栓を借りようとする、時間がかかるとともに、規格が合致しなかった。このように、ソフト・ハード面の平時における連携が大事という教訓です。

(F委員)

徳島市の水道管の規格は、他の12消防本部とは異なるが、使えるようにするためのスタンドパイプという機材を常に搭載している。広域化については、消防本部では判断できない。市町村長や議会レベルの話だと思う。

我々としては、消防技術の研究会や訓練をしている。広域応援協定もあり、広域化ができていなくても、13消防本部で、しっかりと横の繋がりはできている。

これだけは、誤解のないようにして欲しい。

(B委員)

山林火災では、常備・非常備も出動するが、両県域にまたがる場合は、指揮命令系統は混乱する。

(F委員)

北島町の工場事故でも、いちいち徳島市長にお伺いをたてるのではなく、私の現場の判断で対応した。各消防本部とは、日頃から顔の見える連携は十分にできている。

(C委員)

F委員が言うように、広域応援協定はできているので、心配はなさないでほしい。

先ほど、予算の話をしたが、逼迫する救急需要に対応するため、救急車を増やして欲しいが、なかなか、予算がない。

通信指令台は高額なので、持っていない本部もあるが、我々が平成34年に更新するので、そこにあわせて近隣で統合すれば、予算面でメリットがあるのではないか。

(委員長)

南部から、阿南さんから御意見はどうでしょうか。

(G委員)

消防の広域化は、政治的背景が強いし、毎年、消防長も異動する現状では、なかなか進まないというのが現状です。また、作業的にも、地域防災計画の見直しに支障が出るのではとの危惧があります。まず、阿南市長と意見のすりあわせを図るとともに、近隣消防と慎重に協議しながら進めたい。

(H委員)

海陽町では、郡内で55名の消防職員がいるが、いざ、南海トラフ巨大地震になると、その職員も被災するので、どれだけの人数が動けるか分からない。そういう意味でも、那賀町や阿南市とできるだけ早く手を組んで、広域化を進めて欲しい。

(I委員)

美馬市は美馬西部と既に指令台を統一している。隣の中央広域やみよし広域と協議のできる仕組み作り、まず、各ブロックで仕組み作りから始めてはどうか。

(委員長)

この10年間で、連携を進めた美馬地区なので、メリット等をお話しして欲しい。

(I委員)

美馬市の美馬町だけが美馬西部消防に入っており、美馬市でありながら美馬市消防本部の管轄でない。そういう背景もあって、指令台の統一をした。救急にあっては、そういうボーダレスの活動をしていただいている。

(委員長)

高齢化も進む中で救急出動もこの10年間で、2割増えており、災害時だけでなく、平時における救急活動、消防のテコ入れが広域化では重要になる。そういう意味で、指令台を統一するなどから進めることが大切になる。

(J委員)

鳴門市では、北島など近隣の方との連携はあるが、これから高齢化が進む中で、地域の消防団員も少なくなっている。こういう意味でも、消防の広域化が必要になる。

(委員長)

色々と御意見をいただきました。

常備消防のない3町の解消も、広域化の議論の中で今後、意見交換できればとおもいます。

それでは、議事2「今後の予定」について、事務局から説明をお願いします。

(消防保安課長)

資料2—1～2の説明

(委員長)

はい。ありがとうございます。

アンケートを実施して、広域化や非常備町村の解消について、御意見を伺うということです。そして、次回委員会で、具体的な策について議論するということでした。何か、御意見はございますでしょうか。

(C委員)

アンケートについては、市町村に出しても消防本部の意見を必ず聞きに来るので、そうならないように、首長に直接、聞いてもらった方が前に進んでいくと思う。市町村長の考えている消防のあり方を、聞いてもらった方がいい。防災局や危機管理課にアンケートを出したら、必ず、消防に尋ねてくるので、首長の意見が聞けないかもしれない。

(消防保安課長)

それを見越した上で、アンケートを直接、市町村に出すようにします。

(委員長)

次回がアンケートの結果の報告と連携協力の組み合わせの案の提示と思います。次回はいつ開催ですか。

(消防保安課長)

アンケートを10月中にまとめて、11月の早い時期に開催したい。

(委員長)

最終的には第3回が終わりですか。年度末までにはまとめたいのですか。

(消防保安課長)

最短で3回ということです。できれば、年度末を目指していますが、市町村などに丁寧に説明をして、目標として、可能な限り年度末を目指したい。

(委員長)

それでは、以上を持ちまして、本日の議事を終わらせていただきます。